

教育の現場から

◆◆◆◆◆Vol.83◆◆◆◆◆

高校教員から見る「今の高校生に足りない力」

秋田洋和

あきた・ひろかず

1966年生まれ。進学塾講師。高校受験数学・中学受験算数を教える。都内公立中高一貫校土曜講座の授業や、私立中学の教務コンサルタント等、塾の教室を飛び越えて幅広く活躍中。監修本に「中学生の成績が上がる！教科別「勉強のルール」最強のポイント65」（メイツ出版）がある。

社会や経済の急激な変化は、地域や家庭、そして教育にも大きな影響を与え、子どもを取り巻く環境にも及んでいます。ここでは、ますます複雑かつ多様化してきている教育の現場について、お伝えしていきます。

■キャリア教育の実態と課題

我々保護者の感覚だと、キャリア教育といえは「職業調べ」「仕事体験」といったレベルのものを想像しがちですが、高校の先生方が考えるそれは「単なる進路進学指導、職業教育にとどまらず、生徒たちの生き方、生きる力を育成する」ことを目的にしているといえます。そのため、高校生に向けたキャリア教育は学校ごとにその中身は大きく違っているようです。例えば近年増えている総合学科や専門性の高い高校では、キャリア教育が生徒たちの多様な進路決定の一助になるため、その価値は高いものになります。一方で大学進学率の高い普通科高校では、キャリア教育と進学指導の境界線があいまいになりがちで、大学の先生に講演をしてもらうような形をとるところが多いようです。

しかしながら、社会全体が先行き不透明であるために「生徒たちのどのような資質を伸ばしていけばよいのか」について、学校全体としての方向性が見えていないケースもあるようで、生徒たちに提供する授業の質が「担当する教員任せ」になっている気配もあ

■保護者も知っておきたい「社会人基礎力」

実は、先生方にも私たち保護者にも知らない方が多いのですが、「中学・高校生の中に伸ばしたい（学力以外の）資質」にはすでにガイドラインが存在しています。これを社会人基礎力（P.9 図参照）と呼びます。

これは元々「大学生に求められる資質」として経済産業省が公表しているものです。この10年ほどの間に起こった世の中の急激な変化に伴い、経済界から大学に対して「世の中が求める人材をタイムリーに供給してほしい、求める人材とはこのような資質を持った者のことである」とのメッセージだと思ってください。具体的には、

知識の量だけでなく、「自ら課題を発見し、解決していく能力」

だと言われています。簡単にいえば「机に向かって黙々と勉強だけしてきた優等生」ではなく、「仲間や同僚とチームで課題を克服し、プレゼンテーションで周囲を説得できる人材」ということです。

3つの能力 / 12の能力要素

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、
失敗しても粘り強く取り組む力～

- ・主体性 物事に進んで取り組む力
- ・働きかけ力 他人に働きかけ巻き込む力
- ・実行力 目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～

- ・課題発見力 現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- ・計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- ・創造力 新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～

- ・発信力 自分の意見をわかりやすく伝える力
- ・傾聴力 相手の意見を丁寧に聴く力
- ・柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解する力
- ・状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- ・規律性 社会のルールや人との約束を守る力
- ・ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応する力

※平成18年2月、経済産業省では産学の有識者による委員会（座長：諏訪康雄法政大学大学院教授）にて「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を右記3つの能力（12の能力要素）から成る「社会人基礎力」として定義づけ。

■今の高校生に足りない力
 ここであるデータを紹介いたします。社会人基礎力に関する「生徒たちの現状」について高校の先生方に尋ねた調査結果で、「これから必要とされる力」と「現在持っている力」を聞き、その差を見ることで「今の高校生に足りない力」「今の高校生が持ち合わせている力」を読み取るものです。

高校の進路指導に関する調査2014

(3つまで回答)

	将来必要とされる力 (A)	現在持っている力 (B)	A-B
主体性	55.7	12.7	43.7
実行力	35.3	7.0	28.3
課題発見力	43.1	1.9	41.2
発信力	30.2	5.9	24.3
柔軟性	18.2	18.4	▲0.2
傾聴力	19.6	25.0	▲5.4
規律性	14.2	40.4	▲26.2

リクルート進学総研調べ

これを見ると、先生方から見ても今の高校生には「チームで働く力（チームワーク）」は備わっている、との評価になります。その反面、「前に踏み出す力（アクション）」と「考え抜く力（シンキング）」はまだまだ足りないといと見ているのです。今の高校生には、規律を重視し、他人の意見はよく聞く・主体的に、課題を発見し行動する実行力に欠ける

という傾向（いい子だけど、自分からは動かない）が見られます。高学年だと少しずつ見えてきている部分もありそうですね。

我々が子どもの頃には「優等生」だったはずの「言われたとおりのことをそつなくこなすし、評価を得るタイプ」の子どもたちが、社会に出るとそれまでとは180度違う価値観を要求されるのが現代社会です。高校までは当たり前な生活習慣だったことが、大学在学中や就職活動時、そして社会人になった後に普通ではなくなるとすれば、彼らが素直であればあるほど、要求される価値観が変わるごとに混乱するでしょうし、順応するまでには大きなストレスを感じるでしょう。

我々保護者にできることは、こうした事実を知らないまま中学・高校時代を過ごす生徒が大勢いるということを知ること、その上で子どもの「自分で考え・解決する能力」を少しずつ磨くことしかありません。日々の勉強をきちんとこなしてテストの点をしっかりと取ることも大切ですが、小学生であっても「ニュースを見て親子で意見を交わす」「図形の問題を時間無制限で考え抜く」といった経験を積むことは可能です。現在お子さまが受講されている作文講座も、きっと彼らの経験値を大きく上げてくれることでしょう。

先行き不透明な将来を、20年後・30年後の彼らがたくましく生き抜いていけるための準備は、もう今から始めてもけつて早すぎることではないのです。